

今週（11月19日から11月22日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み序盤ということもあって調達サイドは様子見姿勢であり、取り急ぐ先は見られず、落ち着いた展開となった。日銀当座預金残高は週を通して390兆円台前半で推移した。無担保コールO/Nは、週を通して▲0.086～▲0.050%程度での出会い。積み期序盤からの積極的な調達は見られず、引き続き低い水準での出会いとなった。運用サイドでは、実質的な下限レートである▲0.086%でも出し残るオファーが見られた。無担保コールO/N加重平均レートは週を通して概ね▲0.060%台後半での推移となった。ターム物についても積極的な調達は見られず、ロール案件のショートターム物を中心に▲0.040～▲0.035%程度の出合いが見られていた。固定金利方式による共通担保資金供給オペは12日に2W物・8,000億円がオファーされ、2,641億円（期落ち額2,152億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、概ね▲0.175～▲0.125%程度のレンジで推移した。週初19日のGCT/Nは▲0.170～▲0.150%程度、20日は▲0.165～▲0.135%程度、22日は▲0.175～▲0.135%程度、23日は▲0.165～▲0.125%程度となり、引き続き低めの水準で推移した。SCは個別銘柄では5y135～137、10y335～352、20y164～166、30y59、40y11等に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、国内外の祝日を控えて全般的に閑散な中、3M物中心に引き続き低水準のレートで推移するマーケットとなった。

21日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。引き続き買入額が少額にとどまる中、按分落札利回較差+0.027%、平均落札利回較差+0.031%と、引け値のレートが低い特定の銘柄の在庫調整売りからか、弱い結果となった。

19日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.17～▲0.168%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1687%、按分落札利回▲0.1647%と前回債からレートが低下する結果となった。セカンダリーでは、▲0.1725～▲0.17%の出合いと堅調に推移した。

22日に実施された3M物の入札は、WI取引において一時▲0.265%の出合いが見られたものの、その後▲0.253%まで売られる展開となる中、平均落札利回▲0.2687%、按分落札利回▲0.2530%と前回債からレートは上昇したものの、引き続き低いレート水準での決着となった。

●CP市場

今週のCP市場は、小売・鉄鋼・石油・電力等の業態で大型案件が見られ、週間償還総額1,600億円程度に対して、発行総額は6,700億円程度と大幅な発行超となった。結果、市場発行残高は、21日時点で19兆600億円程度、と2ヶ月ぶりに19兆円台となった。市場発行残高は徐々に膨らんでいるものの、0%近辺でのキャッシュ潰しのニーズは根強く、発行レートは概ね0%近辺の狭いレンジで推移している。また発行残高が積み上がっていない銘柄は業者の買いニーズが特に強く、一部マイナス圏でレートを深掘りする動きも見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/19 (月)	21,821.16	0.090	112.77	△ 0.068	△ 0.165	3,914,600
11/20 (火)	21,583.12	0.100	112.50	△ 0.066	△ 0.166	3,920,400
11/21 (水)	21,507.54	0.091	112.89	△ 0.069	△ 0.165	3,905,000
11/22 (木)	21,646.55	0.090	113.00	△ 0.071	△ 0.167	3,912,200
11/23 (金)						

来週（11月26日から11月30日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/26 (月)	9月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				
11/27 (火)	10月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 4,000億円 11/28発行			9月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 11月の米CB消費者信頼感指数
11/28 (水)					7-9月期の米GDP改定値 10月の米新築一戸建て販売件数
11/29 (木)	福岡県金融経済懇談会にて政井審議委員講演 10月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)	2Y 21,000億円 12/3発行			10月の米個人所得・消費支出
11/30 (金)	10月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 11月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 10月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 10月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 10月の消費動向調査(内閣府 14:00) 10月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	TB3M 42,500億円 12/3発行			11月のシカゴPM景況感指数 11月のユーロ圏消費者物価指数速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/26 (月)	▲ 200	▲ 8,800	▲ 9,000	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入	▲ 2,200 ▲ 100 ▲ 100	2,600 1,200	1,400	▲ 7,600	TB3M発行▲42800償還41600 流動性供給発行▲6000 国有林野借入▲800償還500
11/27 (火)	0	▲ 1,000	▲ 1,000	社債買入		800	800	▲ 200	
11/28 (水)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	40Y発行▲4000
11/29 (木)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
11/30 (金)	▲ 1,100	5,100	4,000	CP買入		2,000	2,000	6,000	地方法人特別税 交付税借入▲10500償還10500
週間合計	▲ 3,300	▲ 7,700	▲ 11,000	—	▲ 2,400	6,600	4,200	▲ 6,800	

11/26は日銀予想、11/27以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、月末で調達を控える先が増加すると予想される30日を除き、無担保コールO/N加重平均レートは今週と同水準での推移が見込まれる。レポ市場は、引続き投資家の動向次第であるが、▲0.170～▲0.120%程度のレート推移を予想する。短国市場は、30日に3M物の入札が実施予定となっており、レート水準が注目される。CP市場は、27日にCP等買入オペが2,000億円で実施予定となっている。また、企業の好調な業績を反映し、税揚げや中間配当、12月の賞与に絡む発行が増えることが予想されており、月末発行日を中心にとどの程度発行が膨らむか注目される。

主要なイベントとしては、海外では28日の7-9月期の米国GDP改定値、30日の11月のユーロ圏CPI速報値が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。